

# いつだって前を向いて 面白いことに挑み続けたい

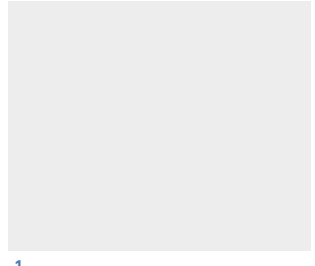
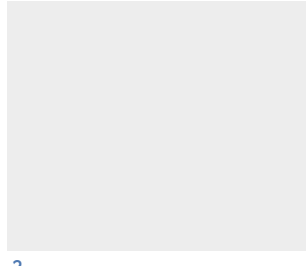
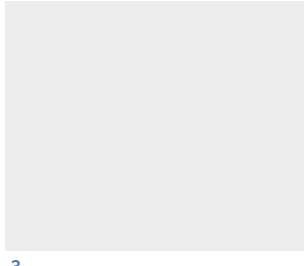
PROFILE

1975年 山形県生まれ。10歳の時に東京都へ引っ越し、長年暮らしていましたが、29歳の時に福島市出身の妻と結婚して同市へ。現在は、家族で旅館を切り盛りしています。

飯坂温泉 ほりえや旅館 五代目／和田 一成さん わだ かずなり



1. 八丈島にて、出会った頃の2人です。2. 2015年の春、4つの温泉地の若旦那が協力し、期間限定で若旦那カフェをオープン。三味線も披露しました。3. 飯坂温泉の総鎮守・八幡神社で10月に行われる「飯坂けんか祭り」では、祭りを運営する世話人を数年にわたり務めています。

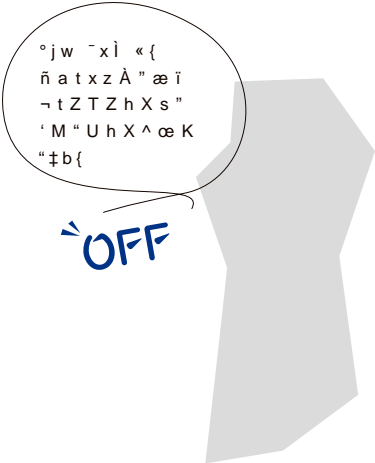


自分らしい生活を探して  
たどり着いた飯坂温泉

20代前半の頃、僕は都内で会社員をしていました。しかし、当時見たテレビドラマに感銘を受け、自分らしい暮らしをしようと一念発起！会社を辞め、伊豆の温泉旅館などで働くようになりま

した。福島市出身の妻と出会ったのは、八丈島のホテルに勤めていた時です。短期アルバイトで入ってきた妻は1カ月後、海外で働くために日本を離れてしまい、遠距離恋愛をすることに。その後、妻は帰国して旅行会社に勤めましたが、ゆくゆくは実家の旅館を継ぎたいと聞いていたので、僕が29歳の時、結婚を機に一緒に福島市へ移り、ほりえや旅館を継がせてもらいました。

ほりえや旅館は、客室6部屋の小さな旅館ですが、1882年の創業で建物は築130年を超え

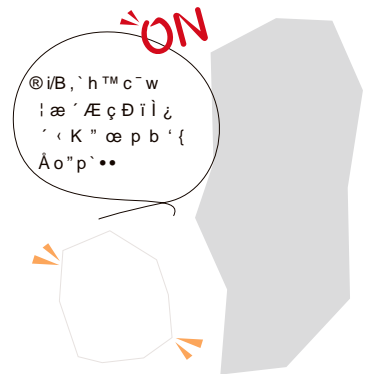


ます。これまで旅館やホテルで働いた経験があったので、掃除や布団敷きには慣れていましたが、料理だけは大女将に教わり、少しずつ勉強しました。

一瞬のひらめきを大切に  
新しい「おもてなし」を追究

日頃から心がけているのは、お客さまの良い思い出になるようなインパクトのあるおもてなしをすること。30歳の時に習い始めた三味線を、夕食の時間にお客さまのいるお部屋を回って演奏するようになったのも、そんな思いが原点となっています。曲を披露するだけでなく、お客さまにお願いして歌ってもらうこともあるんですよ。「こんなサービスは初めて！」と喜んでいただけ時は、本当にうれしいものです。

僕が三味線を始めて5年が過ぎた頃、他の旅館の若旦那2人も三味線を習い始め、その後3人で「だぶべしたゝず」というユニットを結成しました。さまざまなイベントで演奏を披露し、協力して地域を盛り上げています。もともと僕はあまり前に出るタイプではなかったけれど、福島に来て、旅館組合や地域の祭りなどたく



さんの組織で活動するようになってから、すごく積極的になったと思います。今では、ひらめいたアイデアを会合の場でどんどん話してしまうので、「話が長い(笑)」と言われることもあるほど。先日も、「飯坂小唄の英語バージョンを作って世界に発信しよう！」と提案して驚かれたばかりです。どこまでできるかは未知数ですが、これからもみんなでおもてなしや情報発信の新しい方法を考えて、少しずつでも実現していきたいです。

実はもう一つ、僕の個人的な夢があります。それは、4人の子どもたちと「ほりえや楽団」をつくること。今、長女は三味線、次女は民謡を習っているので、ゆくゆくは長男に太鼓、三女に笛を習わせて…と、将来に思いを馳せながら、子どもたちの成長を見守っています。

和田さんの日...

& i  
 1™z|è)  
 slogT-Ö•  
 ña-Ö)xÐ'†b{

½£ç«iw!Ç  
 ®j'wS%JGÖ'S&  
 M'†b~iwSI^†  
 S4Q'†b{

r(wS4Q  
 &iwhšwMZ`^A†dz  
 ."t`4QtæV†b{

B†  
 Çi'A†dhSI^†U  
 ½£ç«žçÄ^h™z  
 lè•SéÉ>B††b{



lw 23 "Ä"j" %oqzE i"iá"  
 JÖ wYç."h)jaMhiZ†b{